

Reitaku Overseas Development Association 麗澤海外開発協会 会報

主な記事

巻 頭 小学校再建プロジェクトスタート
報 告 ネパール・タイ現地報告
お知らせ 平成20年度事業のお知らせ
そ の 他 寄付金等の報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・岩田啓成／編集人・横山守男

平成20年
(2008年)
2月10日
第9号

第5巻 第2号
年2回発行

ラオス小学校再建プロジェクトがスタート — ご協力をお願いします —

東南アジアで唯一の内陸国であるラオスは、他の国に比べて経済成長率も低く、ほとんどの人々が農業を生業に生活しており、いまだ後発開発途上国に分類される国です。また、1954年まで60年間続いたフランス統治時代の「愚民化政策」により、教育面も他国より著しく遅れています。ようやくラオス政府も力を入れ始めましたが、義務教育にあたる初等教育77.3%の就学率に対し、中等教育38%、高等教育2.9%(2000年調べ)と依然低く、また都市部と地方とでは大きな格差があります。ラオスでは、老朽化した校舎の中、今なお雨風にさらされながら勉強する子供たちが多くいます。

このような状況の中、平成19年7月に、南部に位置す

るサワンナケート県の村長より依頼があり、麗澤海外開発協会では、竹原基金によってタート・インハン村の学校校舎再建計画に協力していくことを正式に決定いたしました。しかし、校舎の再建費用は438万円と当初想定していたよりも高く、予定していた竹原基金250万円では、大幅に不足することがわかりました。

「竹原基金」の創設者・麗澤大学 竹原茂教授(当協会理事)は、「子供たちにより良い教育環境を」という思いでこの基金を創設しました。この思いを実現するためにも、そしてアジア諸国の発展のためにも、会員の皆様やより多くの皆様の力が必要です。何とぞご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

**1960年代に建てられた木造の校舎は壁や天井も穴だらけ。
激しい雨風のときには隣の教室に避難することもあります。**



村人たちのカンパだけでは建て直しができません。

ラオスの8割の学校は倒壊の危険性あり

麗澤海外開発協会では、SVA(社団法人シャンティ国際ボランティア会)と協力し、平成19年12月より南部に位置するサワンナケート県のタート・インハン学校の再建工事に着手しました。

タート・インハン学校は、幼稚園児48名、小学生450名、中学・高校生312名の計810名の生徒が通学しています。今回再建を予定している教室は1968年に建設された3教室。現在115名の小学生が使用している校舎で、壁の木は割れ、トタン屋根には穴が開いてしまっています。そのため、雨の時には他の校舎に移って勉強をしなければなりません。

ラオスでは生徒数が増加する一方で、教員の賃金が低いため教員不足に悩んでいます。また、老朽化した校舎も全体の8割と学習環境の整備が急務となっています。

タート・インハン学校の様子



右は教室の様子。机や椅子もボロボロ。
屋根も壁も穴だらけ。



皆様のご支援お待ちしております



屋根はトタンで作られているが、今にもはがれ落ちてきそうな状態。下の写真は校舎の全景。



ラオス小学校再建プロジェクトについて 竹原 茂 理事に聞く

——竹原理事は1965年にラオスの国費留学生として来日後、政変によって政治難民として日本に亡命、帰化され、以後、難民救済運動や国際協力活動を長年続けてこられました。今回、ラオスへの教育支援が始まりましたが、故郷への支援についてどのようにお思いですか。

竹原 日本人の竹原茂として、故郷へのお返し、私や私の家族を育ててくれた大地への恩返しをしたいと長年思ってきました。今まで様々な形で国際協力活動をしてきましたが、運命的にもモラロジーと出会い、また私と麗澤海外開発協会との縁も大変深いことから、ぜひともこの活動を通して自分の故郷と麗澤海外開発協会をつながたい、と思っています。



メーコック財団において子供たちへの指導も行う

——20回以上のスタディツアーの引率やボランティアサークルの指導など、授業の枠を超えて学生指導にも貢献してこられましたね。

竹原 支援活動というのはGive and Take、つまり支援する側、受ける側の双方にとってプラスになるのが理想です。麗澤海外開発協会は廣池学園という教育機関を母体としています。ですから、国際協力活動を通して、学生や教職員にも学び、成長してほしいと思っています。

——今後ラオスへの支援のビジョンをお聞かせください。

竹原 まず基本的な教育環境を整えることが大切です。教育支援によって国家の将来を担う子供たちを育てていくことが先決です。そして、ぜひ日本語やモラロジーを学び、私の後継者としてラオスに貢献できる人材が生まれることを願っています。

●竹原茂氏プロフィール

旧名ウドム・ラタナヴォン。1943年、ラオスに生まれる。1965年、文部省(当時)の国費留学生として来日。東京外国語大学を経て一橋大学経済学部を卒業し、ラオス政府経済計画省計画課長を務める。74年、再度来日して一橋大学大学院に入学。75年、ラオスでの共産党政権樹立によって帰国を断念して日本に亡命。以後、精力的に難民救済運動、国籍法改正運動、タイのメーコック・ファーム(現・メーコック財団)の設立・支援活動等に携わる。現在、麗澤大学外国語学部教授、麗澤海外開発協会理事。著書に『ラオス概説』(共著・めこん社)、『ラオス・日本、アジアに生きる一異文化理解と国際協力の理想を求めて』(麗澤大学出版会)等がある。

竹原基金へのご協力のお願い

竹原基金は、タイやラオス、カンボジアなど東南アジアの貧しい子供たちや少数民族の子供たちに対して教育支援をしています。2003年設立以降、多くの皆様方にご協力をいただきながら、教育助成事業を推進してまいりました。ラオス学校建設計画では、校舎の再建に続いて、図書館建設と建設後のフォローアップ、スタッフの育成計画を進めております。

皆様からのこれまでのご支援に感謝申し上げるとともに、これらの活動へのますますのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

<振込先について>

郵便振替の場合 通信欄に「竹原基金」とご記入ください。

郵便振替：口座番号 00120-6-499164 名義：(財)麗澤海外開発協会

銀行振込の場合 下記の専用口座をご利用ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通1286464 名義：竹原基金口



ネパール 現地報告

◆ 今年もよもぎオイルの抽出が終わりました

今年も昨年並みに乾燥よもぎの収穫があり、よもぎオイルの抽出も無事終了。オイル抽出終盤期に雨が降り続き、採集そのものにはさほど問題はないのですが、採集をする村人たちが「傘がない」「レインコートがほしい」「蛭が出るので賃金をもう少し出してほしい」などと要求することが非常に多くなりました。

昨年までは入山採集税なるものがあることを知らず、採集にかかわる村民からも何も聞いていなかったのですが、今年度からよもぎ採集税を払って1年間の許可を取らなければならないことになりました。ネパールではよもぎは誰も関心すら持たない雑草同然だった草ですが、ようやく「日の当たる存在に昇格」したことをうれしく思います。



よもぎの葉を集める村人



もぐさ用に葉を乾燥させる



オイルにする葉は洗浄後、抽出機へ

◆ ネパールでのお灸の普及

20年前ネパール入りした当時は鍼灸を知っている人は極わずかでした。OTTC(東洋医学専門学校)開校準備のため教育省をはじめ、労働省、社会福祉省、国家計画委員会など関係省庁に行き、鍼やお灸について説明しましたが、鍼は知っているという人はいても「お灸」「もぐさ」はどう説明しても理解していただけませんでした。

よもぎを乾燥させてもぐさにし、そのもぐさを「つぼ」の上に置き線香で火をつけ、一時的に火傷をさせて病気を治す治療法で中国では4000年前から、日本では2000年前から行われている優れた医療であることを説明しましたが、99.9%の人は信じていませんでした。なかには「火傷させて、なぜ病気が治るのだ」と怒り出す人もいて、情けない思いをしたことを思い出します。

今年からJOCV(青年海外協力隊)隊員が鍼灸師としてネパールに派遣され、カトマンズ市役所に開設された「鍼灸院」で治療を始めました。ようやくネパール政府が「鍼灸」を医療として公認したことになり、20年間頑張ってきたと心からうれしく思っています。

報告：畑美奈栄(鍼灸師)



ネパールの国際会議場でお灸のデモンストレーションを行いました

● 日本道経会東京が研修旅行でよもぎ工場を視察 ●

平成19年11月3日から10日までの8日間、日本道経会東京の11名の方々がネパールへの研修旅行で、ティテパティよもぎの会のよもぎ工場を視察に来られました。日本道経会とは、「道徳と経済は一体である」という理念に基づき、「三方よし」の経営を通じて健全な経済社会の発展に努めている団体で、今回視察に来られた方々も経営者の方が多く、大変熱心にご覧になってくださいました。

皆様もネパールや近隣の国へ来られる際にはぜひご連絡いただき、見学にお越しください。



タイ 現地報告

◆ 新しい仲間が加わりました

メーコック財団の近隣にあるパーサー村から、新たな仲間が加わりました。自宅から通学することになった子供と入れ替わり、かねてから希望していた子供たちが入ることになりました。メーコック財団での規則的な生活や当番の仕事など、最初は慣れないようですが、スタッフの愛情を受けて、がんばってほしいものです。

運営者であるピパット氏が今年に入ってから体調を崩しており、多くの支援者が心配していましたが、徐々に回復し、お茶の苗を植える作業も子供たちと一緒にできるまでになりました。子供たちにとって父親のような存在であるピパット氏。日本からも暖かいエールを送り、活動を少しでもサポートしていきたいと思います。



寮生活を通じて規律を身に付けていく



ツアーの学生に刺繍を教える

◆ 伝統刺繍で技術向上を目指す

ピパット氏を支え、子供たちの世話から運営に携わる妻のアノラックさん(チェンマイで縫製工場を経営)は、時間を見つけては子供たちにアカ族伝統の刺繍や裁縫を教えています。生地などの材料も自分の工場から無料で提供しています。以前から子供たちが作った刺繍の生地をメーコック財団の訪問者に販売してきましたが、今後アノラックさんが日本向けに販売する商品の中にも少しずつ入れることができるかもしれません。学校の勉強が中心のため、たくさん作ることはできませんが、技術の向上を目指すことで自信と将来への一つの希望が見えてくることでしょう。

報告：渡辺朋子(麗澤海外開発協会スタッフ)

● 麗澤高等学校スタディツアーでメーコック財団を訪問 ●

「今の自分にできること」を考える旅に

昨年12月20日から28日まで、第4回タイ・スタディツアーを実施。1、2年生の希望者9名が参加しました。

このツアーは、チェンライ郊外にある養育施設・メーコック財団での滞在をメインとするものです。財団の子供たちは、複雑な家庭事情を抱えているにもかかわらずとても明るく、言葉や年齢の違いなど気にもせず、笑顔で優しく接してくれました。ツアーが始まった当初、生活の不便さや気候の違いにより、生徒たちからは不安や不平の声も聞かれました。しかし、財団で子供たちに会ってからは、みずから朝5時に起きて掃除をする者、炊事の手伝いをする者、タイ語の本を片手に一生懸命にコミュニケーションを図ろうとする者…と、出会いをとおして成長していく姿を見ることができました。次回もより多くの生徒が参加し、貴重な体験をしてくれることを心より願っています。



報告：江頭誠道(麗澤中学・高等学校教諭)

第18回 麗澤大学タイ・スタディツアー 子供たちを通して学んだこと



メーコック財団にて少数民族の子供たちと文化交流

8月16日から27日の12日間、
麗澤大学の竹原茂教授による
引率のもと、竹原ゼミを中心に

8名の学生がツアーに参加し、ゼミのテーマである国際協力を体験してきました。今年で18回目となるツアーでは、毎年当協会の支援先であるメーコック財団を訪問し、多くの学生が国際ボランティア活動、異文化交流を続けています。

さて、今年は参加者たちにとって、どんな夏休みとなったのでしょうか。

メーコック財団の子供たちに出会えて、実際にタイでの暮らしを体験できたことに誇りを感じる。(西條藍)

メーコック財団の子供たちは毎朝5時に起き、6時から活動を始め、食事や掃除や洗濯を全て自分たちで行っている。また、どんな虫も平気で、力持ちで、涙を一滴たりとも見せずに立ち向かっていくところが、精神的にも体力的にも強く見えた。そんな一生懸命な姿を見て、私も見習わなくてはいけないと感じた。子供たちと生活を共にしたことで、自分自身も強く生きようと心の底から思うことができ、とても価値のある旅になった。

今後竹原ゼミで国際協力のありかたを追求し、さらに深めていこうと思います。(和田絵里奈)

私は今まで自分や周りに甘えていたことに気づかされました。そして日本の物がありふれている生活を普通に過ごしてきた自分に、恐ろしささえ感じました。周りの環境に慣れきってしまい、他の国に物が不足している現実を忘れきっていたのです。帰国後、いつも私を大学に通わせてくれる親に感謝し、できることは自分でやるようにしようと決めて生活しています。私はこれから就職活動が始まりますが、是非この体験で得たものを無駄にせず、少しでも社会に伝え、そして一人でも幸せにできるそんな活動にまた参加したいと思います。そのためにも目標をもち、まずは今、自分がすべきことをやろうと思います。

アジアは後れている、そんなの嘘である。(脇田康二郎)

ツアー6日目、カレン族の村を訪問し一晩お世話になり、アジアの豊かさを痛感した。村に住む人々は皆、笑みを浮かべていて、幸福という観点から見るとカレン族は日本より進んでいるように思う。このツアーを通し、書物では得られない衝撃と感動を受けた。

子供たちはタイ語の先生や観光ガイドなど、それぞれ将来の夢を持っています。(齊藤理恵)

メーコック財団の子供たちには夢を持ってもらいたいし、その夢を叶えるためにも、十分な教育を受けることができる環境が整えられることを強く願っております。



子供たちは人懐っこくて、かわいかったです！

平成20年4月から麗澤海外開発協会は MIRCを統合し、事業を拡充します

財団法人麗澤海外開発協会と MIRC（モラロジー国際救援運動推進委員会）は、これまでにそれぞれの特長を生かした活動を行ってきましたが、平成20年4月をもって両団体は統合し、MIRCの事業は財団法人麗澤海外開発協会が引き継ぐこととなりました。

今後とも皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

★ 支援事業

ネパールにおける医療支援活動

タイにおける教育支援活動

ラオスにおける学校再建・図書館建設

カンボジアにおける学校建設

★ 緊急支援活動

海外において災害などが発生した場合に緊急に支援を行います

★ 講演会・交流会

講演会等を通して海外協力への理解を深めてもらうとともに次世代の育成に努めます

★ スタディツアー

タイ・ラオス スタディツアー
（またはネパール）

カンボジア スタディツアー

★ 書き損じハガキの回収

★ 募金活動

★ 会員、竹原基金、一般寄付金の募集

麗澤大学の学園祭に駐日ラオス人民民主共和国特命全権大使が非公式訪問

平成19年11月3日、晴天に恵まれる中、駐日ラオス人民民主共和国特命全権大使シートン・チッニョーティン閣下が麗澤大学を訪問、麗陵祭を見学されました。大使一行は華道展や茶道展、ボランティアサークル「プアン」の民芸品販売などを視察された後、竹原ゼミの展示(地球温暖化について)を中心に見学され、大学の国際色豊かな学園祭に深い関心を示されていました。ラオス大使が麗澤大学を訪問されたのは今回で2回目。1996年11月にトーンサイ・ポティサーン大使(当時)が訪問され、本学において「ASEAN加盟する前のラオスの経済と社会開発」と題する講演をされたこともあります。

麗澤海外開発協会では、平成19年12月から竹原基金により、竹原教授の生まれ故郷ラオス・サワンナケート県にあるタート・インハン小学校の校舎3教室の建て替え工事がスタートしたばかり。また、協会が2月11日から9日間の日程で開催するタイ・ラオススタディツアーには、麗澤大学生9名を含む15名が参加し、建設現場でボランティアに携わるほか、現地の小学校や支援先を訪問します。

今回のラオス大使の訪問は、当協会においても、また20年度からスタートする麗澤大学外国語学部の国際交流・国際協力専攻においても、発展途上国諸国との交流・協力に広く道を開く第一歩となることでしょう。



麗陵祭を見学される大使一行

『年賀はがき』ひきだしに眠っていませんか？

書き損じハガキを募集！

書き損じハガキを集めて、子供たちの教育を支援しよう



皆さんのお手元に書き損じハガキはございませんか？

麗澤海外開発協会は書き損じハガキを集めています。送られたハガキは、郵便局で新しい切手に交換し、通信費に活用させていただいており、ひいては以下のような支援にもつながっています。

官製ハガキであれば、古い年賀ハガキでも構いませんので、未使用のものを当協会事務局までお送りください。

ハガキ55枚で... 100人の子供たちに、約1か月分の衛生管理品を揃えることができます。

ハガキ80枚で... 100人の子供たちに、約3日分のミルク等の栄養補助食品を提供できます。

ハガキ150枚で... 100人の子供たちに、約1年間分の教科書を買うことができます。

※お送りいただいたハガキはすぐに郵便局で切手に交換し、住所などの個人情報が外部に漏れることのないよう適切に処理いたします。

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成19年6月から平成19年12月末日)

会 費

富山修、丸山駿一、土谷和光、一島房雄、加藤義彦、村山直子、野田雅義、柴田英輔、宮本勝子、河原崎義晴、荒木郁雄、竹原茂、藤村薫、林正勝、木下廣太郎、山本幾雄、白木ふさ子、宮島達郎、関哲夫、山本祥子、柏谷康博、白木和彦、所一彌、小林雅純、福田薫、松本哲洋、笠井信道、森口紗由利、今井収、山田雅雄、増田一江、館林正孝、長谷川武、渡辺价儀、大住敬一、野田好秋、梅村元成、金子武正、望月一雄、桑島義智、小西直之、横山守男、甲良昭彦、山本賢龍、廣池幹堂、鷺津邦男、内田八代、古川益二、大内栄三、島田京子、大井武、加島功一、古川庄造、永治達彦、望月敏雄、望月雄二、望月淑子、望月靖子、栗山清和、濱井利一、宮脇常夫、横山印刷株式会社(横山明弘)、株式会社京都プラザホテルズ(清水幸雄)、野田ミート株式会社(野田好秋)、東京北モラロジー事務所レインボー会

竹原基金

長尾祐子、土谷和光、篠原正隆、横溝久子、ウケアラ外文子、関光利、竹原秀男、星井道雄、平英幸、平百絵、宮本勝子、竹原茂、木下廣太郎、山本幾雄、関哲夫、山本祥子、柏谷康博、白木和彦、所一彌、大木光章、松本哲洋、加藤信次、山田雅雄、長谷川武、安達俊子、青山由子、梅村元成、桑島義智、小西直之、横山守男、甲良昭彦、松井さだ子、廣池幹堂、内田八代、岡戸絵美、小林良平、栗山清和、宮脇常夫、財団法人モラロジー研究所中日本生涯学習センター、岐阜県モラロジー経済同友会、麗澤大学竹原ゼミ、株式会社めこん(桑原晨)、愛知県モラロジー経済同友会

一般寄付金

木村多加志、丸山駿一、篠原正隆、横溝久子、島村弘子、木下廣太郎、山本幾雄、関哲夫、所一彌、大河原良雄、加登啓司、山田雅雄、宮崎珠徳、梅村元成、小西直之、横山守男、甲良昭彦、御代川克之、井田孝、廣池幹堂、栗山清和、上田通泰、宮脇常夫、風澤俊夫、交野寝屋川モラロジー事務所(西川喜久男)、財団法人モラロジー研究所中日本生涯学習センター、新潟モラロジー事務所(小林誠司)、岐阜西モラロジー事務所(所一彌)、和歌山モラロジー事務所(山添雅通)、ROCK ゴルフ教室開講 20 周年記念ゴルフコンペ

(敬称略)

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。(麗澤海外開発協会事務局：04-7173-3165)